

直前東大熱力学・波動特講



問題

【1】

《解答》

(1) 状態方程式より,

$$p_0 V_0 = NRT \quad \therefore \quad N = \frac{p_0 V_0}{RT}$$

(2) 気球が押しのけた空気の物質量は N である. よって, 浮力は,

$$\mu N g = \frac{\mu p_0 V_0}{RT} g$$

(3) ロープがとりはらわれたときの合力が鉛直上向きであればよいので,

$$\frac{\mu p_0 V_0 g}{RT} - \left(M + \frac{m p_0 V_0}{RT} \right) g > 0$$

$$\therefore \quad M < \frac{p_0 V_0}{RT} (\mu - m)$$

(4) 最高高度では, 気球が受ける力が釣り合うので,

$$0 = \frac{\mu V_0 g}{RT} \cdot \frac{p_0}{1 + \alpha h} - \left(M + \frac{m p_0 V_0}{RT} \right) g$$

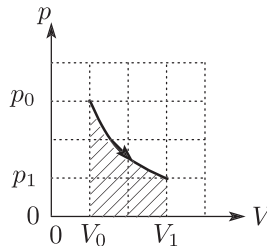
これを h について解いて,

$$h = \frac{(\mu - m) p_0 V_0 - MRT}{\alpha (MRT + m p_0 V_0)}$$

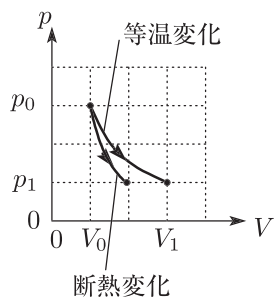
(5) (a) 気球が上昇する間, 気球内のヘリウムの温度は (大気の温度と等しく) 一定であり, ヘリウムの圧力と大気の圧力はつねに等しい. よって, ボイルの法則より,

$$p_0 V_0 = \frac{p_0}{1 + \alpha h} V \quad \therefore \quad V = V_0 (1 + \alpha h)$$

(b) ヘリウムの状態変化は等温変化であるから, $p - V$ グラフは (p_0, V_0) , (p_1, V_1) を通る双曲線である. さらに, ヘリウムの内部エネルギー変化はない. よって, 熱力学第1法則より, 気球が得る熱量は, 気球が外部にした仕事 (下図の斜線部の面積) に等しい.



- (6) ヘリウムの状態変化は断熱膨張であるから，熱力学第 1 法則より，外部にした仕事の分だけ内部エネルギーが減少し，したがって温度が下がる．このとき，同じ高度 (同じ圧力) のときで比べると，断熱変化の方が温度は低いので，状態方程式より，断熱変化の方が体積は小さい．



【2】

《解答》

(1) 気体の内部エネルギー U_0 は、状態方程式より、

$$\begin{aligned} U_0 &= \frac{3}{2} \times [\text{物質質量}] \times [\text{気体定数}] \times [\text{絶対温度}] \\ &= \frac{3}{2} \times 60p_0 \times LS \\ &= 90 \times p_0 LS \quad \dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

(2) 打ち出される直前の圧力を p_1 とする。問題文中の関係式より、

$$\begin{aligned} p_1(8LS)^{5/3} &= 60p_0(LS)^{5/3} \\ \therefore p_1 &= \frac{60}{8^{5/3}}p_0 = \frac{15}{8} \times p_0 \quad \dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

(3) 気体と小物体 A からなる系に着目すると、

$$[\text{系のエネルギーの変化量}] = [\text{系外がした仕事}] \quad \dots \textcircled{3}$$

が成り立つ。系外、すなわち大気がした仕事 W は、

$$W = -p_0 S \cdot 7L \quad \dots \textcircled{4}$$

A が B から打ち出される直前の気体の内部エネルギー U_1 は、②より、

$$U_1 = \frac{3}{2}p_1(8LS) = \frac{45}{2}p_0 LS \quad \dots \textcircled{5}$$

さらに、③より、

$$\left(U_1 + \frac{1}{2}mv_0^2\right) - (U_0 + 0) = W \quad \dots \textcircled{6}$$

⑥に、①、④、⑤を代入して v_0 について解くと、

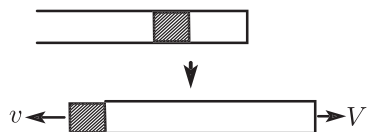
$$v_0 = 11 \times \sqrt{\frac{p_0 LS}{m}} \quad \dots \textcircled{7}$$

(4) 与えられた数値を⑦に代入すると、

$$\begin{aligned} v_0 &= 11 \sqrt{\frac{1.0 \times 10^5 [\text{N/m}^2] \cdot 1.0 \times 10^{-2} [\text{m}] \cdot 1.0 \times 10^{-4} [\text{m}^2]}{1.0 \times 10^{-1} [\text{kg}]}} \\ &= 1.1 \times 10 [\text{m/s}] \end{aligned}$$

- (5) 打ち出される瞬間の A の速さを v , B の速さを V とする. 運動量保存則より,

$$3m \cdot V + m(-v) = 0 \quad \dots \textcircled{8}$$



③より,

$$\left(U_1 + \frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2} \cdot 3m \cdot V^2 \right) - (U_0 + 0 + 0) = W$$

上式と⑥とを比較すると,

$$\frac{1}{2}mv^2 + \frac{1}{2} \cdot 3m \cdot V^2 = \frac{1}{2}mv_0^2 \quad \dots \textcircled{9}$$

⑧, ⑨より, V を消去すると,

$$\begin{aligned} v &= \sqrt{\frac{3m}{3m+m}} v_0 \\ &= \frac{\sqrt{3}}{2} \times v_0 \end{aligned}$$

【3】

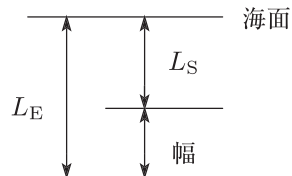
《解答》

- (1) 深度 l のときの音波の先端の往復所要時間が T 以下であれば、測定可能である。したがって、

$$\frac{2l}{V} \leq T \quad \therefore \quad l \leq \frac{1}{2}VT = L$$

- (2) 右図において、

$$\begin{aligned} \frac{2L_E}{V} &= t_E, \quad \frac{2L_S}{V} = t_S \\ \therefore \quad \text{幅} &= L_E - L_S = \frac{1}{2}V(t_E - t_S) \end{aligned}$$



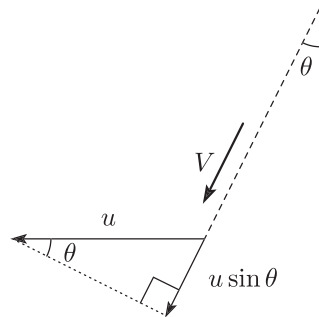
波長を λ とすると、 $\lambda = \frac{V}{f_0}$ であるから、

$$\frac{\text{幅}}{\lambda} = \frac{1}{2}f_0(t_E - t_S)(\text{倍})$$

- (3) 魚群の速度は、音波の進行方向成分が 0 であるから。
 (4) 魚群の速度は、音波の進行成分が $u \sin \theta$ であるから、

$$\begin{aligned} V - u \sin \theta &= f_1 \lambda \\ \therefore \quad f_1 &= \frac{V - u \sin \theta}{\lambda} = \frac{V - u \sin \theta}{V} f_0 \end{aligned}$$

- (5) 魚群は振動数 f_1 の音波を発する“音源”とみなせる。
 この“音源”が、音波の進行方向に関し速さ $u \sin \theta$ で遠ざかっているとみなせるので、反射波の波長を λ_2 とすると、



$$\begin{aligned} V + u \sin \theta &= f_1 \lambda_2 \\ \therefore \quad f_2 &= \frac{V}{\lambda_2} = \frac{V - u \sin \theta}{V + u \sin \theta} f_0 \\ &= \frac{1 - \frac{u}{V} \sin \theta}{1 + \frac{u}{V} \sin \theta} f_0 \\ &= \left(1 - \frac{2u}{V} \sin \theta\right) f_0 \end{aligned}$$

- (6) (5) の結果より、

$$\begin{aligned} \Delta f &= |f_0 - f_2| = \frac{2uf_0}{V} \sin \theta \\ \therefore \quad u &= \frac{\Delta f}{2f_0 \sin \theta} V \end{aligned}$$

【4】

《解答》

(1) 隣り合うスリットを通過して θ の方向に出ていく光の経路差は $d \sin \theta \simeq d \cdot \theta$ と表せるので、

$$\text{強め合う (明るく見える) 条件} \quad \cdots \quad d \cdot \theta = \lambda m$$

(2) θ の方向に見える明るい縞の x 座標について、

$$x = L \tan \theta \simeq L \cdot \theta \quad \therefore \quad \theta = \frac{x}{L}$$

これを (1) に代入すると、

$$d \frac{x}{L} = \lambda m \quad \therefore \quad x = m \cdot \frac{L\lambda}{d}$$

(3) 屈折率 n の媒質中での波長は $\lambda' = \frac{\lambda}{n}$ なので、明るい縞の x 座標は、

$$x' = \frac{L\lambda'}{d} \cdot m = \frac{L\lambda}{nd} \cdot m$$

(4) この回折格子のスリット間隔 d は、

$$d = \frac{0.01 \text{ m}}{1000} = 1 \times 10^{-5} \text{ m}$$

$\lambda_1 = 3.8 \times 10^{-7} \text{ m}$ の光による明るい縞の x 座標を x_1 、対応する明線の m を m_1 とすると、(2) より、

$$x_1 = \frac{1 \text{ m} \cdot (3.8 \times 10^{-7} \text{ m})}{1 \times 10^{-5} \text{ m}} \cdot m_1 = 3.8 \text{ cm} \times m_1$$

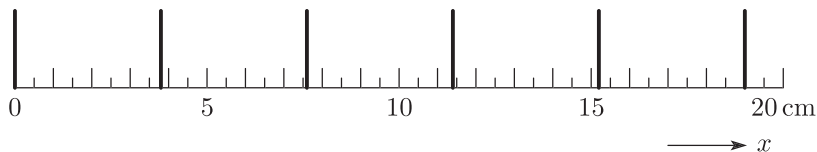
また、 $\lambda_2 = 7.6 \times 10^{-7} \text{ m}$ の光による明るい縞の x 座標を x_2 、対応する明線の m を m_2 とすると、

$$x_2 = \frac{1 \text{ m} \cdot (7.6 \times 10^{-7} \text{ m})}{1 \times 10^{-5} \text{ m}} \cdot m_2 = 7.6 \text{ cm} \times m_2$$

よって、 $x = 0 \sim 20 \text{ cm}$ の範囲に見える明るい縞の位置は、

$$\begin{cases} \lambda_1 = 3.8 \times 10^{-7} \text{ m の光} & \cdots & x_1 = 0, 3.8, 7.6, 11.4, 15.2, 19.0 \text{ cm} \\ \lambda_2 = 7.6 \times 10^{-7} \text{ m の光} & \cdots & x_2 = 0, \quad 7.6, \quad 15.2 \text{ cm} \end{cases}$$

これらの位置を記入すると、下図の太い実線のようになる。



(5) ガラスの屈折率 n_g は波長 λ によりわずかに異なるので、これを $n_g(\lambda)$ と表すことにする.

(3) より, $\lambda_1 = 3.8 \times 10^{-7} \text{ m}$ の光による明るい縞の x 座標 x_1' は,

$$x_1' = \frac{1 \text{ m} \cdot (3.8 \times 10^{-7} \text{ m})}{n_g(\lambda_1) \cdot (1 \times 10^{-5} \text{ m})} \cdot m_1 = \frac{3.8 \text{ cm}}{n_g(\lambda_1)} \times m_1 \quad \dots \textcircled{1}$$

同様に, $\lambda_2 = 7.6 \times 10^{-7} \text{ m}$ の光による明るい縞の x 座標 x_2' は,

$$x_2' = \frac{1 \text{ m} \cdot (7.6 \times 10^{-7} \text{ m})}{n_g(\lambda_2) \cdot (1 \times 10^{-5} \text{ m})} \cdot m_2 = \frac{7.6 \text{ cm}}{n_g(\lambda_2)} \times m_2 \quad \dots \textcircled{2}$$

波長によらず屈折率が一定であれば, $m_1 = 2$ の x_1' と $m_2 = 1$ の x_2' は同じ位置になるが, 実際は, 光の波長が短いほど屈折率が大いいため, これらの位置は一致せず,

$$(m_1 = 2 \text{ の } x_1') < (m_2 = 1 \text{ の } x_2') \quad \dots \quad \begin{cases} \text{a が } \lambda_1 = 3.8 \times 10^{-7} \text{ m の光} \\ \text{b が } \lambda_2 = 7.6 \times 10^{-7} \text{ m の光} \end{cases}$$

(6) ①, ②より, a と b の位置は,

$$\begin{cases} x_a = \frac{3.8 \text{ cm}}{n_g(\lambda_1)} \cdot 2 = \frac{7.6 \text{ cm}}{n_g(\lambda_1)} \\ x_b = \frac{7.6 \text{ cm}}{n_g(\lambda_2)} \cdot 1 = \frac{7.6 \text{ cm}}{n_g(\lambda_2)} \end{cases} \quad \therefore \quad x_b - x_a = \frac{7.6 \text{ cm}}{n_g(\lambda_2)} - \frac{7.6 \text{ cm}}{n_g(\lambda_1)}$$

$m_1 = 4$ の x_1' と $m_2 = 2$ の x_2' に注目すると,

$$x_2' - x_1' = \frac{7.6 \text{ cm}}{n_g(\lambda_2)} \cdot 2 - \frac{3.8 \text{ cm}}{n_g(\lambda_1)} \cdot 4 \quad \therefore \quad \frac{x_2' - x_1'}{x_b - x_a} = 2$$



会員番号

氏 名